

浜松市生活支援体制づくり協議体 第2層天竜圏域 第3回会議 議事録

開催日時	令和6年3月27日（水）10時00分から11時30分まで
参加者	委員：15名 高齢者福祉課：2名 長寿保険課：3名 地域包括支援センター 事務局：5名
場 所	天竜保健福祉センター2階 大会議室
	<p>1. 開会</p> <p>2. 挨拶 浜松市高齢者福祉課</p> <p>3. 活動状況の共有</p> <p>【熊地区】</p> <p>・NPO 法人夢未来くんまの活動が、今年度末をもって終了してしまうことが大きい話題でした。どうしてそうなったか考えるといろいろな要因があるものの、1つは担い手が高齢化、部会でも情報共有する中でこれからの5年間は、今までの5年間とまったく違うものだと思います。今までは、何とかなっていたことが、これからの5年間は、なんとかならなくなるようになってくると考えられます。人口データを見てみると団塊の世代が地域活動を担ってきましたが、これからの5年間でその人材も高齢化が進み、支えていた人たちが、支えられる人に以降していく事が考えられます。今まで、屋根を10本で支えていたのが、3本抜けてもその次の世代が1本柱を立てて支えていたのが、これからの時代は一気に5～6本程度の柱が抜け、下の世代が柱を立てるにも1本もしくは頑張って2本になってしまう時代が来る状況です。なので今までのやり方をそのままにというのは無理があることが前提で、これからの生活支援の在り方について考えていく必要があると考えられます。個人的には、これから非常に危機的な状況になってくるのではないかと思います。自助、共助も今後難しくなってくる中で、どうすればいいのか考えた際に、今ある社会資源を見直そうという事で、デイサービス(公助)が重要な役割を担っていくのではないかとこの事で「くんまデイサービス」へ12月に地区部会委員が体験会を行いました。実際私も参加した中で、非常に良かったなと感じました。実際にどうデイサービスをおこなうのか、そこに通っている人たちと「もっとうこういうようなものをしてから楽しいのにな」という声を聞けよ良かったと感じております。それを熊地区社協だよりの中に、くんまデイサービス「もうひとつの居場所」という事をまとめて記事にまとめ世帯配布する動きになりました。どうしてもデイサービスというのが「ネガティブ、そんなところに行くほどではなく、私は元気よ」という人が多い中で、これからはもっとハードルを下げてイメージを変えていく事が大切だと考えています。また、ボランティアさんなどもつなげて人が入っていく事も必要だと考えております。2月にくんまデイサービスの公開講座が開催され、部屋がいっぱいになるぐらいの人が集まり非常に好評でした。まとめとして、これからは何とかなる時代は終わる中で、「地域を超えて支え合わなくては、自助、共助が難しくなってくると思う。今</p>

後地域を超えてのささえ愛をどうしていくのかを考えていきたい。」

【上阿多古地区】

- ・自治会、民生委員、シニア、地区社協、ふれあいセンターの推進委員などめぼしい人があつまってVR体験をしたい、スマホ体験、ドローン体験、リーダーがいないなどの話がでた。その中で、自治会から認知症高齢者の人が多い中で講習会をやったらどうかという話が出た。その中で講演会を実施したが、阿多古の医師の話では、認知症になる前に、みんなが交流する場が数多くあれば認知症発症しても早く発見できる環境になるという話がありました。そのために何をすればいいのかという話が出た中で、男の人も参加できる居場所や屋外スポーツや料理教室などの話が出て、人が集まるような仕掛けが必要だという話が出た。やろうという気持ちはみんなあっても、リーダーになってやるという動きにはつながらない。

【下阿多古地区】

- ・家事支援を令和6年度から立ち上げるという事で力を入れていきました。4月4日にコーディネーターと協力支援員を中心に最初の発足会を行う予定です。協力員30名、各自治会にコーディネーターを決めて頂き協力を頂けることとなりました。家事支援を立ち上げていくに協力をしてくれる人をどう呼び掛けていくのか考えるに、関係者だけではなく、サロンや地域のつながりから呼びかけ仲間づくりや支援に繋がっていくのではないかと感じております。

【二俣地区】

- ・令和4年度の話し合いの中で、困った時にどこに相談したらいいのか分からないなどの声があがったので、令和5年度に「困った時の連絡帳」を活用した地域の中での連絡先の共有化を進めてきました。連絡帳作成には、地区部会委員をはじめ、地域の方たちにも協力を依頼し作成をしました。こうして出来上がったものを1月の自治連の会議にて世帯配布の依頼、2月に全世帯への配布。その後ケアマネさんや民生委員にも周知をしました。

【光明地区】

- ・昨年度の秋に生活についてのアンケート調査を実施し、その結果を基にどうなっているかを話し合いました。アンケート配布は2,292世帯、回答は716件(32%)内78件がQRコードでの回答でした。60～70代が約6割を占めていました。その中でも移動に関する課題があげられました。移動販売が、各地区に来ているが移動販売で取り扱っていない衣類など購入するにやはり交通手段の確保が必要だと言われています。「困った時の連絡帳」も光明地区にも欲しいのではないかという声も上がりました。ささえあい事業が、光明地区では対象外になってしまっているの、何かそれに代わるものがあるといいのではという意見も出ました。

【竜川地区】

- ・竜川地区の資源の取材を行い、広報誌の発行を継続しております。カラー版という事で、隣家の人の写真が出ていたなど話題にすることが多くなりました。竜川地区では、若い人材が仲間に入り未来につながる活動をという事で、正月には餅つきも

行われました。

【春野地区】

- ・ 9月に実施した「認知症フレンドリー講座」の振り返りを行い、今後講座を受けてどのように地域の支え合い事業に展開できるかを話し合いました。認知症は誰でもなりうる、近い将来5人に1人と言われているが、現役世代や学生時代に「認知症」について知る機会ができればという話があがりました。中学校での「認知症講座」を開催できるように現在調整中です。

4. 意見交換

- ・ 3つのグループに分かれて「認知症について」「困ったときの連絡帳について」「ささえあいポイント事業について」地域で話し合われていることや課題と知っていることを話し合った。

5. 閉会